

---

〈参加者〉 学校運営協議会委員	○稲葉優子（欠）	○辻 真人	○加藤ひとみ
	○山本哲也（欠）	○辻 洋幸（欠）	○石井雅隆
	○河内香織	○水林あや子	○鈴木 薫
函南小学校	○校長	○教頭（欠）	○教務

### 1 会長あいさつ

- ・夏休み明け、防災キャンプや地域のお祭りなどで、子供たちと関わる機会があり、学校のことに意識が向く時期だった。
- ・初めてクラブ活動を見ることができてよかった。

### 2 校長あいさつ

- ・年度当初の予定していた日に臨時のPTA総会（規約改正について）が入ってしまい、日程を変更していただき申し訳なかった。代わりにクラブの様子を見ていただくことにした。子供の様子をご覧になっての率直な感想を聞かせてほしい。

### 3 協議

#### （1）学校評価（前期）の結果について

##### 学校より

- ・夢中になって取り組めることがある、楽しく学校生活を送っている、などが高評価だったのは嬉しいこと。少数派にも目を向け、楽しめていない子への対応を丁寧にしていきたい。
- ・自分の良いところを言える、という項目がとても低い。自信のなさ、自己肯定感の低さが心配である。引き続き認め合う、褒める等の策を講じていきたい。
- ・いくつかの項目で、保護者の評価が低い。学校の様子が見えていないのではないかな。

##### 各委員より

- ・アンケートの字面だけ見て答えると、子供たちはイメージがわからない。「例えばこういうことができればAにしていよいよ。」など具体的なイメージを持たせるように説明しながら答えさせるとよいのではないかな。（加藤委員）
- ・日本人の気質だと思うが、保護者同士の会話の中で、謙遜して、「うちの子はたいしたことないですよ」という言い方をしてしまうことがある。子供は近くで聞いていて、そんなことないのか・・・とってしまうのではないかな。（水林委員）

- ・職員や児童と保護者との間で、評価に差があるものは、やはり、学校での様子が分からないからこそ低い結果になってしまっているのではないか。(辻委員)
- ・今回のクラブのように、外部の方に褒めてもらうのもとてもよい機会になる。いろんな所から認められる経験があるとよい。(鈴木アドバイザー)
- ・読書への取りかかりとして、読書アプリを入れることを検討してはどうか。(水林委員)
- ・きまりを守る、というしつけの面と、自己肯定感の項目は相反する結果になるのも頷ける。厳しくしつけ過ぎても自己肯定感が低くなるし、何でも容認しているときまりを守れなくなってしまう。どちらもバランスが大事。(石井委員)

## (2) 全国学力学習状況調査の結果について

### 学校より

- ・国語も算数も知識を問う基礎的な問題はよくできていたが、思考を伴う問題や自分の言葉で説明するような問題はあまりできなかった。授業の中で、理由や、答えにたどり着くまでの道筋を説明したり話し合ったりする場面を大切にしたい。
- ・質問紙の中で、「自分にはよいところがあると思うか」という項目が全国や県と比べてかなり低かった。学校評価の結果ともリンクしているが、とても心配である。

### 各委員より

- ・函南町の結果を見ると自己肯定感が高かったと言われていたのに、函南小ではとても低かったと知り驚いた。(鈴木アドバイザー)
- ・親としては、ついいろいろなことが目に付き、叱ることが増えてしまう。できているところは当たり前、と思わず、小さなことでも褒めたり認めたりする声掛けをしたい。(河内委員)
- ・夢や目標を持ちにくい社会ではあるが、大人は子供になりたいと思わせる楽しんでいる大人像を見せていきたい。(辻)

## 3 その他

### 校長より

- ・当て職の方以外は、ぜひ次年度も引き続き委員をお願いしたい。定員までに余裕が出そうなので、どなたか推薦できる方がいたら教えてほしい。

※次回第4回は、1月29日(水)です。